

パターン	対応ルール	対象薬剤例
①ATCcodeが付与されていない場合	ATCレベル4まで薬効分類に従い付与 レベル5以降は順番にXA、XBと付番する (現在も流通している医薬品はATCの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	J01CAXA シクラシリン (O) J05AEXB パニプレビル (O)
②DDDが付与されていない場合	JDDDとし、原則として、日本の添付文書最大用量とする 体重あたりの投与量が設定されている場合は70 kgで計算する (現在も流通している医薬品はWHOにDDDの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	A01AB18 クロトリマゾール (troche) JDDD=0.05 g G01AF17 オキシコナゾール JDDD=0.1 g J01CAXA シクラシリン (O) JDDD=2 g J01FA03 ミチカマイシン (O) JDDD=1.2 g J05AEXB パニプレビル (O) JDDD=0.6 g J05AP58 タクラタスビル/アスナプレビル/ベクゾラビル (O) JDDD=4 UD P01BF01 アルデメテル/ルメファントリン (O) 合剤全体としての力価に対しJDDD=1.12 gと設定 [WHOのルールに基づき計算 短期投与する薬剤に対するDDD=合計投与量/投与日数=(0.14 g/錠×4錠×6回=3.36 g)/3日間=1.12 g]
③抗菌薬が合剤目つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	A02BD~ ヘリコバクターピロリ除菌薬 WHOの組み合わせ薬剤のDDD設定ルールに従って1日の錠数をDDDとしてUD設定 (クラリスロマイシン 400 mg製剤:10 UD、800 mg製剤:12 UD) J01CR50 アンピシリン (125 mg) /クロキサシリン (125 mg) (O) WHO : DDD=8 UD J01CR50 アンピシリン/クロキサシリン (P) WHO : DDD=2 UD J01EE01 スルファメトキサゾール/トリメトプリム (O・P) WHO : DDD=4 UD J05AP57 グレカプレビル/ビレンタスビル (O) WHO : DDD=3 UD P01BB51 プログアニル/アトパロン (O) WHO : DDD=4 UD
④抗ウイルス薬が合剤目つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	J05AP51 ソホスブビル/シバスピル (O) WHO : DDD=1 UD J05AP53 オムビタスビル/パリタプレビル/リトナビル (O) WHO : DDD=2 UD J05AR01 シドブジン/ラミブジン (O) WHO : DDD=2 UD J05AR09 エムトリシタビン/テノホビル シゾプロキシル/エルビデグラビル/コピシスタット (O) WHO : DDD=1 UD
⑤規格が〇〇万単位の場合	DDDをMUとして処理 (1 MU=100万単位)	A07AA02 ナイスタチン (O) WHO : DDD=1.5 MU (O) →JDDD=1.5 MUと設定 (力価: 50万単位製剤=0.5 MU) A07AA05 ボリミキシンB (O) WHO : DDD=3 MU (O) →JDDD=3 MUと設定 (力価: 100万単位製剤=1 MU、50万単位製剤=0.5 MU) A07AA10 コリスチン (O) WHO : DDD=9 MU (O) →JDDD=9 MUと設定 J01CE01 ベンジルペニシリン (P) WHO : DDD=3.6 g (P) →1MU=0.6 gのため、JDDD=6 MUと設定 J01CE08 ベンジルペニシリンベンザチン (P) WHO : DDD=3.6 g →JDDD=2.4 MUと設定 J01CE08 ベンジルペニシリンベンザチン (O) WHO : DDDなし →JDDD=1.6 MUと設定 J01FA02 スピロマイシン (O) WHO : DDD=3 g (O) →1 g=3 MUのため、JDDD=9 MUと設定 J01XB01 コリスチン (P) WHO : DDD=9 MU (P) →JDDD=9 MUと設定 (コリスチン/メタンシルホン様 1 mg=3万国際単位)
⑥酵素阻害剤の入った合剤の場合	WHOでは抗菌作用成分のDDDに従うとされているが、 流通データ・レセプトデータでは、本数データを扱うため、本マスタ上では は配合比を加えJDDDと設定して対処	J01CR01 アンピシリン/スルバクタム (P) アンピシリン+酵素阻害剤のWHO : DDD=6 g →アンピシリン/スルバクタムの配合比が1 : 2のため、JDDD=9 gと設定 J01CR02 アモキシシリン/クラファン様 (O) クラバモックス® (1.01 g製剤中アモキシシリン 0.6 g/クラファン様 0.0429 g含有) : アモキシシリンとしてJDDD=1.60725 gと設定 オーグメンチン® : アモキシシリン+酵素阻害剤のWHO : DDD = 1.5 g→配合比が2:1のため、JDDD=2.25 gと設定 J01CR05 ビベラシリン/タゾバクタム (P) ビベラシリン+酵素阻害剤のWHO : DDD = 14 g →ビベラシリン/タゾバクタムの配合比が1 : 8のため、JDDD=15.75 gと設定 J01DD62 セフォペラゾン/スルバクタム (P) セフォペラゾン+酵素阻害剤のWHO : DDD = 4 g →セフォペラゾン/スルバクタムの配合比が1:1のため、JDDD=8 gと設定 J01DH51 イミベネム/シラスタチン (P) イミベネムのWHO : DDD=2 gとして計算 (販売されている製剤の規格にシラスタチンを含まないため補正不要) J01DH56 イミベネム/シラスタチン/レレバクタム (P) イミベネムのWHO : DDD=2 g →イミベネム/シラスタチン/レレバクタムの配合比が2:2:1のため合剤全体としての力価に対し JDDD=5 gと設定 J01DI54 セフトロザン/タゾバクタム (P) セフトロザン+酵素阻害剤のWHO:DDD=3 g →セフトロザン/タゾバクタムの配合比が2:1のため、JDDD=4.5 gと設定
⑦WHOCでDDDが設定されているが、JDDDを用いている薬剤	集計上、および便宜上の理由のため	J01CR01 アンピシリン/スルバクタム (P) アンピシリン+酵素阻害剤のWHO : DDD=6 g →アンピシリン/スルバクタムの配合比が1 : 2のため、JDDD=9 gと設定 J01CR05 ビベラシリン/タゾバクタム (P) ビベラシリン+酵素阻害剤のWHO : DDD = 14 g →ビベラシリン/タゾバクタムの配合比が1 : 8のため、JDDD=15.75 gと設定 J01DD62 セフォペラゾン/スルバクタム (P) セフォペラゾン+酵素阻害剤のWHO : DDD = 4 g →セフォペラゾン/スルバクタムの配合比が1:1のため、JDDD=8 gと設定 J05AF07 テノホビル シゾプロキシル (O) テノホビル シゾプロキシルのWHO : DDD=0.245 g → fumarate塩としてJDDD=0.3 gと設定 J05AR10 ロピナビル/リトナビル (O) ロピナビルのWHO : DDD = 0.8 g →ロピナビル/リトナビルの配合比が4 : 1のため、JDDD=1 gと設定 J01DH56 イミベネム/シラスタチン/レレバクタム (P) イミベネムのWHO : DDD=2 g →イミベネム/シラスタチン/レレバクタムの配合比が2:2:1のため合剤全体としての力価に対し JDDD=5 gと設定
⑧ブラスターを含んだ複数規格が存在するバック製剤	バック製剤のため請求単位はシートになるが、配合比率の異なる複数規格 が存在するため、集計上は力価をWHOの設定通りブラスターを含まないg 単位で設定し、DDDをWHOに準拠する形で設定	J05AE30 ニルマトレビル/リトナビル (O) ニルマトレビルのWHO : DDD=0.6 g →主成分のニルマトレビルのDDDをバック製剤のDDDとしてJDDD=0.6 gと設定

※“JDDD”はJapan DDDとしてAMR臨床リファレンスセンターで設定しました。WHO Collaborating Centre for Drug Statistics MethodologyのDDDではありません。

※薬剤名の後ろにあるカッコ内は投与経路となります。(O) : oral、経口 (P) : Parenteral、非経口

※MU: 百万単位、UD: unit dose